

偉人たちのビフォー・アフター ～セジウィック地球科学博物館～

延原尊美



写真1. セジウィックのフィールドノートと採集した岩石



写真2. ダーウィンのビーグル号航海に関わる展示

セジウィック地球科学博物館 (Sedgwick Museum of Earth Science) は、イギリスのケンブリッジ大学付属の地質系博物館です。1904年にケンブリッジ大学教授のアダム・セジウィック (1758-1873年) を記念して建てられましたが、その前身は 1728 年に設立された Woodwardian Museum です。なお前身となった博物館の名称も、イギリスの博物学者ジョン・ウッドワード (1665-1728 年) に由来しています。ケンブリッジ大学は、地球や生き物の見方を変えるような、偉大な地質学者や古生物学者を数多く輩出してきましたが、セジウィック地球科学博物館には、彼らが世界中から収集し研究した膨大な化石、岩石、鉱物の標本 100 万点以上が収蔵・展示されています。市民に対してもオープンな博物館で、設立より約 300 年間に渡って入館無料で来訪者を迎えてきました。いくつかの財団や基金、寄付によって運営されており、簡素なリーフレットの案内と白黒印刷の手作り感あるミュージアムガイド、小さなミュージアムショップにも「Welcome (よく来たね、さあどうぞ)」という暖かさを感じます。

セジウィックは進化論を唱えたチャールズ・ダーウィン (1809-1882 年) の地質学の先生でもあり、地質時代「デボン紀」の提唱者としても知られています。セジウィック地球科学博物館には、セジウィックやダーウィンら、偉人たちが採集した岩石標本とあわせてフィー

ルドノートも展示されています (写真 1, 2)。なお、ダーウィンが進化論を着想する重要なきっかけとなったのは、イギリス海軍の測量観測船ビーグル号による世界周航 (1831-1836 年) での観察や体験であることはよく知られていることですが、当時の調査道具、採集標本、書簡、フィールドノートなども展示されています。ダーウィンがビーグル号に乗り込んだのは無給の博物学者としてで、年齢にして 20 代中ごろ、今で言えば修士課程の大学院生の若者と同じ年代です。私たちが見ているのは偉人のフィールドノートではなく、航海中の若者の生き生きとした営みが現れているフィールドノートとも言えます。

前回、大英自然史博物館のバックヤード展示 (博物館の舞台裏である収蔵庫や研究活動そのものを見せる工夫) について触れました。自然史博物館ではどんな仕事が行なわれているんだろう、研究者ってどんな人なんだろう、バックヤードは人が自然を理解していく活動や営みをのぞき見る窓とも言えます。その意味で偉人たちのビフォー・アフターに関する展示も、偉人たちが無名の若者時代であったときにタイムスリップしたバックヤードと言えるかも知れません。セジウィック地球科学博物館では、科学史についての展示を息づかせるための大切なヒントをいただいたような気がします。